

科目名	助産論Ⅰ（助産の基礎） MidwiferyⅠ		担当教員 （研究室番号）	大平 肇子（104） 渡邊 聡子（102） 岩田 朋美（101） 杉山 泰子（103） 市川 陽子（105） 辻 まどか（105）		教員への連絡方法 （メールアドレス）						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	自由	単位数 （時間）	1（15）	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
											オープンクラス	可
科目 目的	助産の対象を理解するとともに、助産に関する基本概念や法的基盤、歴史、今日的課題について学び、助産師に求められる役割と責務を考察する。											
ディプロマ・ ポリシー （DP）	主要なDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。（姿勢・態度）										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解）										
		C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。（技能・表現）										
到達 目標	1. 助産の対象について述べるができる。 2. 助産に関する基本概念や法的基盤について説明することができる。 3. 助産師の責務と役割について考察することができる。											
成績評価方法 （基準）		筆記試験（50%）、演習課題（20%）、レポート課題（20%）、学習内容のコメント（10%）										
再試験の有無と 基準等		無										
教科書		無										
参考書等		助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論、医学書院。 助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産学概論、日本看護協会出版会										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		母性看護学、助産学に興味を持ち、主体的に学びたい学生に履修してほしい科目です。事前学習、グループでの討議、発表等を組み合わせ、学生が自ら関心を持ったテーマについて探求することを期待しています。										
備考		助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。										
回	学習項目				学習内容				主担当 教 員	授業 方法		
1 回	助産の対象についての理解				・ 助産が対象とする人々や集団について学習し、それらの人々への理解を深めるための基本的理論を学習する。 ・ 助産に関する法的基盤を学ぶ。 ・ 助産の定義について学ぶ。				大平	講義		
2 回	助産師の活動の実際				・ 助産師の業務・責務について学ぶ。 ・ 助産師の活動の実際を学ぶ。				大平 /学 外協力者	講義		
3 回	助産に関する基本概念①				・ 助産師の定義について学ぶ。 ・ 助産師のコアコンピテンシーについて学ぶ。				大平他	演習		
4 回	助産に関する文化、歴史、制度①				・ 出産の変遷と助産の歴史について学ぶ。 ・ 周産期医療における助産師の役割を学ぶ。 ・ 病院における助産サービス管理について学ぶ。 ・ 助産所における助産サービス管理について学ぶ。				大平	演習		
5 回	助産に関する文化、歴史、制度②				・ 医療事故防止および産科医療補償制度について学ぶ。 ・ 周産期における倫理的課題と意思決定支援について学ぶ。				大平	演習		
6 回	助産に関する基本概念②				グループワークの発表				大平他	演習		
7 回	助産に関する基本概念③				グループワークの発表				大平他	演習		
8 回	助産師に求められる責務と役割				・ グループワークを通して理解した助産師の責務と役割について考察する。 ・ 法律からみた助産師の業務、義務について理解する。 ・ これからの周産期医療と助産師の役割について考察する。				大平	講義		

学 習 課 題	
第 1 回課題(事前) : 母性看護学概論で学習した内容の復習	
第 3 ～ 5 回課題 : 各自が選択したテーマについてグループで調べ、十分にディスカッションすること	
第 6 ～ 7 回課題(事前) : グループでディスカッションした内容について発表資料を作成すること	
第 7 回課題(事後) : 演習での学びを中心に、各自でテーマを定め、レポートにまとめ期日までに提出すること。(A4、2 ページ程度)	

実務経験を活かした教育の取組
担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。